



ふくしま看護モデル検討部会令和6年度活動報告： 学内活動

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福島県立医科大学看護学部 公開日: 2025-04-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 和田, 久美子, 高橋, 香子 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2002360

学 内 活 動

ふくしま看護モデル検討部会 令和6年度 活動報告

ふくしま看護モデル検討部会
部 会 長 和田久美子
前部会長 高橋 香子

拠点化推進班：

阿久津和子，井上 水絵，大内 美奈，阿部 久美

ふくしま看護モデル検討部会拠点化推進班は，看護学部 Vision2018において10年後の看護学部の将来像として描かれた『ふくしま看護モデル：看護実践・教育・研究の拠点』の一つである「研究の拠点」の発信方策として令和6年1月29日(月)～2月22日(木)に8号館1階エントランスにおいて看護学部教員の研究成果の掲示を企画し実施した。

13名の教員より計19枚の研究成果のポスターの提供があり，総合科学，生命科学，基礎看護学はじめ6領域・部門より多種多様な研究成果を掲示することができた。初めて教員の研究成果を目にする学生も多く，登下校時にポスターを見ている姿が多くみられた。また，学生以外でも大学職員や附属病院の看護師もポスターに興味・関心を示し熱心に見入っている様子であった。

アンケート結果では，掲示場所，掲示時期，掲示規模など計画通りであり概ね良好だった。自由記載欄には，「どんな研究に取り組まれているのか，その成果とともに知ることができた」「教員の研究成果を多くの人に知ってもらうためにも，今回のように実施するとよいと思う」との記載があった。しかし学生からのアンケート回答率の低さが課題にあげられ，回答方法，形式などを検討していく必要があった。



令和6年度の教員の研究成果の掲示は，場所を8号館2F廊下に変更し，令和7年1月14日(火)から2月3日(月)の期間において行った。また，看護専門職に対し看護学部の研究・活動を知ってもらうという目的で，令和7年3月の臨地実習教育会議の参加者を対象に，全体会がスタートする待ち時間を利用して教員の研究内容をパワーポイントのスライドショー形式で紹介した。

キャリア形成班：

丸山 育子，石井佳世子，鈴木 学爾

ふくしま看護モデル検討部会キャリア形成班では，卒業しても母校とのつながりを維持し，母校が所属感や安心感を得られる場となることを目的にホームカミングディを企画している。

令和5年度 第2回ホームカミングディ

【開催概要】

卒後1年目の看護師，助産師，保健師と在校生3・4年生がともに『1年目をどう乗り越えたか』というテーマで話す時間をもつことによって，卒業生は自信がもてるように，在学学生は卒後1年目のキャリア形成のイメージを持ち，就職への心構えができることを目的に実施した。

日 時：令和6年2月14日(水) 16:30～17:30

場 所：8号館4階

対 象：3年次・4年次の学部生

参加者：学部生 23名 卒業生 8名 計31名

内 容：卒後1年目の保健師，助産師，看護師のブースを作り，学部生が自由に移動し卒業生に相談する機会を得た。

【実施後のアンケート結果】

ホームカミングディ終了後に3・4年生を対象として行った満足度調査では，23名中20名の回答が得られた。

開催時期と開催方法については全ての学生が適切と回



答していた。「悩み事や困りごとを話せる場となったか」についても16名の学生が10点満点中8～10点評価であった。全体の満足度についても全ての学生が10点満点中8～10点評価であった。

満足の理由は「実際の声を聞いてよかった。自分から複数の看護師と話す機会はほほないためありがたかった。」「疑問だけでなく不安も聞いていただき気持ちが和らぎました。ありがとうございます。」「先輩との距離が近く、気軽に質問できたから」「1年目の先輩が実際に働いて感じた困難やその乗り越え方等、貴重なお話を聞かせていただくことができたためです。」などの記載があった。

卒後1年目と在校生の話し合いの場に教員は入る事はせず、自由に話し合える場としたことが、話しやすい雰囲気となり、満足度の高さに繋がったものと考えられる。

令和6年度 第1回ホームカミングディ

【開催概要】

卒後におけるリアリティショックなどについて共に話し、共感を得て、エネルギーを補充し、今後のキャリア形成の礎の場となることを目的に実施した。

日 時：令和6年6月15日(土) 14:00～15:30

場 所：8号館3階学生ラウンジ

対 象：令和6年3月卒業生 看護学部23期生

参加者：卒業生14名、教員参加者7名、同窓会副会長1名 計22名

内 容：教員から卒業生へのメッセージ、参加者自己紹介（自分の近況等）、懇談

【実施後のアンケート結果】

アンケート調査では、14名中12名の回答が得られた。開催時期や開始時間については、8割が適切、2割がほぼ適切と回答し、開催時間については5割が適切、4割の卒業生がやや短い、1割が短いと回答であった。開催内容・方法についても9割が適切、1割がやや適切と回答した。また、参加した教員の人数については6割半が適切と回答し、3割の卒業生がやや少ないと回答した。開催時間がもう少し長く、もっと多くの教員に参加してほしいなどのニーズがうかがえる。「悩みや困りごとを話せる場となったか」についての回答では、2.5割の学生が最高評価をつけ、10段階中7以上と回答した卒業生も7.5割いた。一方で、3段階、4段階と低い評価を付けている卒業生もいることから今後の課題と考えられる。全体の満足度については4割以上が最高評価の10段階をつけ、9割以上が8段階以上の評価をしていることから全体には満足度が高かったものと考えられる。

自由回答に「みんなそれぞれの大変さがあるなかで頑張っていることを知り、明日からも自分なりにまた頑張っていこうと活力をもらえた時間でした。」「久しぶりにみんなと会えて楽しかったです！」という回答が得られた。

今後も在校生、卒業生がつながることを目指して、工夫をこらして企画・実施していきたい。



革新的すき間を埋める班：

坂本 祐子, 大川 貴子, 関野 瑞希

地域の中で、現状の制度ではカバーしきれていないことや、連携がうまくできていないがゆえに支援につながっていないところに対し、現場の人と看護学部の教員が連携することで少しでも前に進める手立てを模索することを目的に、令和6年4月に精神科訪問看護ステーション「りんく」を開業された皆様を招き、下記のとおり意見交換会を実施した。

【テーマ】訪看立ち上げました

【講師】精神科訪問看護ステーション「りんく」

吾妻 陽子 さん, 渡辺 照子 さん,

磯上 茜 さん, 西牧 直人 さん

【日時】令和6年7月24日(水) 15:45-17:15

【場所】8号館6階 S601

【対象】本学看護学部・別科教員と看護学研究科の
大学院生

【周知方法】対象者へのメールと案内ポスターの掲示



2024年4月に、精神科訪問看護ステーション「りんく」を開業された皆様に、
立ち上げの「あれや」「これや」をお話いただきます。

開催 7.24 [水]

場所 S601

時間 15:45~17:15

問い合わせ

ふくしま看護モデル検討部会「革新的すき間を埋める班」
担当 坂本・大川・関野



今後は、精神科訪問看護ステーション「りんく」と関心を寄せられた先生が、互いに取り組んでいけそうなことを考え合う検討会や勉強会を設定し、実践・研究・教育を連動できるよう投げかけを行っていく。
(2025年度分も一部含む。)

【進行】司会 大川貴子

1. ふくしま看護モデル検討部会長の挨拶 和田久美子
2. 講演 吾妻 陽子 さん
3. 意見交換

総勢26名(うち院生2名)に参加いただいた。吾妻さんからは、開業から4か月を迎えようとする時点までの奮闘の様子や、関係機関への挨拶回りで浮き彫りになってきた“すき間”についてご講演いただいた。講演後の意見交換では、地域の中での周産期メンタルヘルスの問題を抱えた方々や、病児のご家族への支援など、私たちが協同することで取り組めるかもしれない課題が上がった。